

自治会アンケート調査結果 報告

流山市市民生活部コミュニティ課
平成26年3月

調査の実施概要

1 目的

市の地域コミュニティの中心的な役割を担う自治会から、自治会未加入者問題をはじめ、組織や運営などの様々な課題について声を聴く機会が増加しています。市としても自治会が抱える課題等は市全体の課題であると考えます。

そこで、今後の市の施策及び支援策に活かすために、自治会運営等に関するアンケート調査を行い、その結果をまとめました。

御協力いただいた自治会長の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

2 実施方法

郵送によるアンケート調査を実施。

3 期間

平成26年3月～4月末

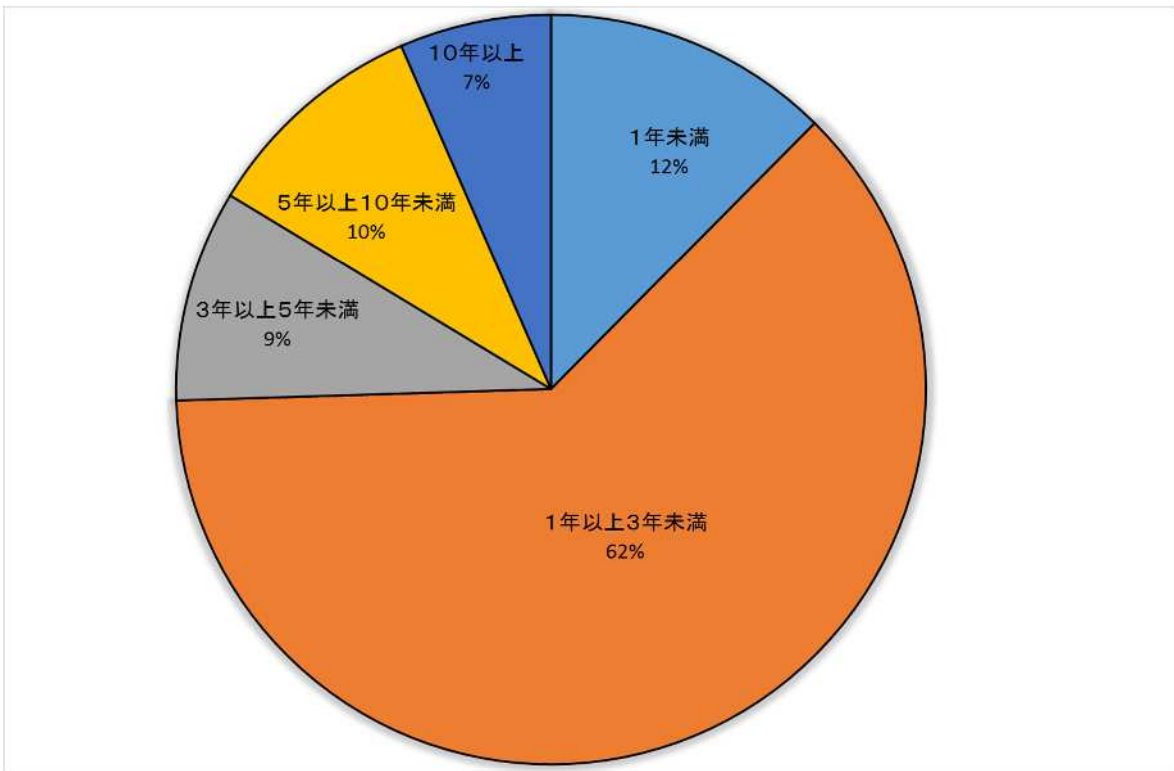
4 対象

流山市内のすべての自治会（平成25年度末時点175自治会）の会長

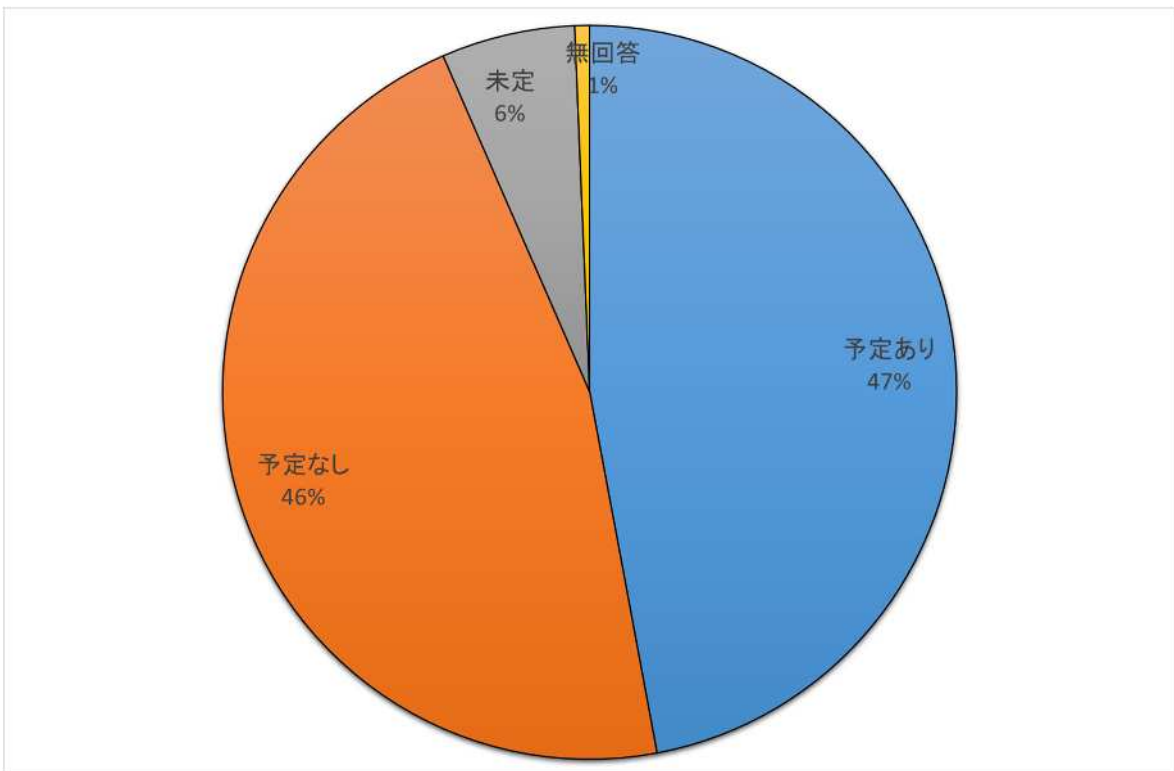
5 回収結果

送付数	175通
回答数	153通
回答率	87.4%

問1 自治会長になって何年になりますか。



問2 来年度は、自治会の役員をお務めになる予定はありますか。



問3 継続性のある自治会活動のために何か工夫はされていることはありますか。

現役員が、次年度役員をサポート

役員半数を改選することにより新任者ばかりにならないようにしている。
例) 副会長を4人体制(2年任期)とし、2名ずつ翌年に残るよう編成
会長は、翌年度、副会長、顧問、相談役等となり役員をサポートする。
副会長が翌年会長、会計監査等役員として残る。
前年度副会長又は部会長経験者が会長職を務めている。
次年度会長予定者が副会長に推選する。
自治会役員が自主防災組織等の役員を兼務する。
役員約半数は推薦、残りは輪番で構成。
理事は可能な範囲でボランティア(夜回り、学童見守り、草刈り)
退任会長が翌々年の総会の議長を勤める。
自治会の各班ごとに役員を選出し、新人の発掘につとめている。
評議員から会長を選出
何年か役員を経験した人が会長等(四役)に就任すし、新入役員は専門部の副部長職(役員)を経験し部長職(役員)に就くように配慮
次年度会長予定者が副会長に推選する。
顧問を設置(会長、理事経験者)

役員引継ぎについて

定期総会で活動報告書の様式を引き継ぐ。
役員業務引継ぎ会(定期総会后1週間以内)を開催し、書類(1年間活動した内容の書類)、回覧物ファイル等の引継ぎする。
利用したデータ・資料をすべてUSBメモリに保存し、引きつぎを行っている。
毎年の資料は保管し、それを参考にしていく。
1年間の活動報告や懸案事項を担当ごとに引継ぎしている。
自治会役員のマニュアルを作成している。

任期を定めている

4年を限度と考えている。新会長を選出し、1~2年程度顧問として引継ごうと思っている。
会長・副会長の任期4年、本部役員の任期2年と定め、各班から2年に一度本部役員を選出する。
会計監査だけ役員(会長含む)の経験者から選出。
各役員を担当毎に2名とし、1年毎に1人ずつ入れ替わり新人と2年目の2人でペアを組んで対応している。(1名の任期は2年)

役員任期を1期2年と定め連続3期6年まで認めている。

輪番・くじ引き等

班内で輪番で会長選考。班内ではなくくじ引きで選任（未経験者が役員（会長）になった場合を考え、検討が必要。）

輪番制会長、副会長選出制度。

会員相互の協力等

会員の意見を良く聞く。実行できることは速やかに行う。困ったことは困らないようにアドバイスする。

協力出来る人間を見つけて役員及び行事に参加してもらう。

住民間の人間関係が自治会活動の基となっている。

班単位を少人数制にした（意見が言いやすい）

来年度に自治会長になる人に自覚させている。

役員になり手なく、誰でも出来る環境にしていき、仕事をしている方でも務まるようにイベント等、寄付金は各世帯徴収でなく、会費から一括寄付するetc行事を自粛している。役員及び理事の仕事の見直しを図っている。

イベント等

慰労会を年1～2度行う。

自治会内で9つのブロックを設け、原則として2か月に1回程度ブロック会議会合を開催し、自治会活動の現状を報告。

夏祭り・新春交流会始め、各イベントを通じ若手から高齢者までの相互の信頼や参加意識の高揚に努めている。この様な活動の中から人材の発掘を心がけている。

自治会規約は各2年任期と決めているが、現役員とグループ長（10人体制）の中から、及び過去役員経験者の中から候補者を選択、依頼をするようにしている。

今年の盆踊りは子供中心の出し物でお母さん達を引っ張りだそうと実行委員会をつくり検討。

その他

役員チームワーク、地域のスローガンの推進を大事にしている。

会長を含む本部役員選抜に関する規定を検討中。

高齢化、会社勤務等により役員選考が困難。今後検討したい。

三役に若い人を入れている。

次期につなげる人事を考えて行きたい。

自治会内の安全及び防犯対策

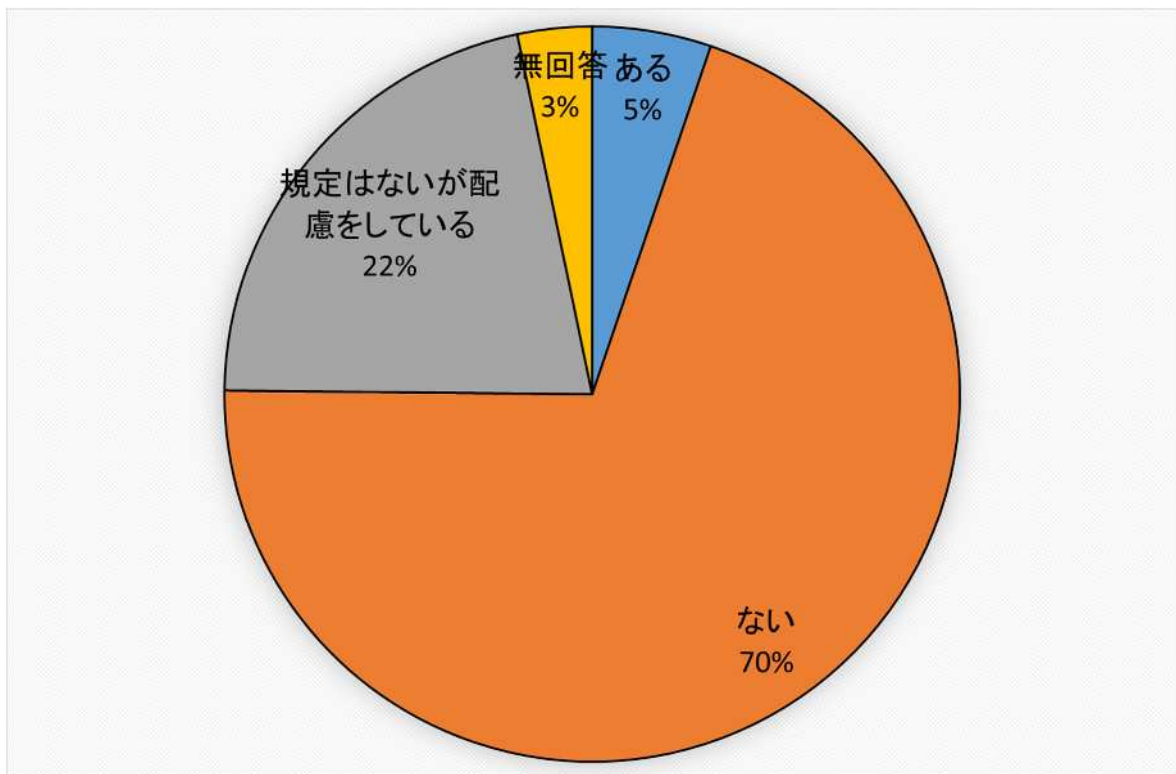
年度末役員抽選会により選考。役員活動補助費を新たに予算化した。
役員若返り。平成26年度が副会長を1名増員し2名として後進の指導を強化する。

後続を念頭に副会長2名を配置。

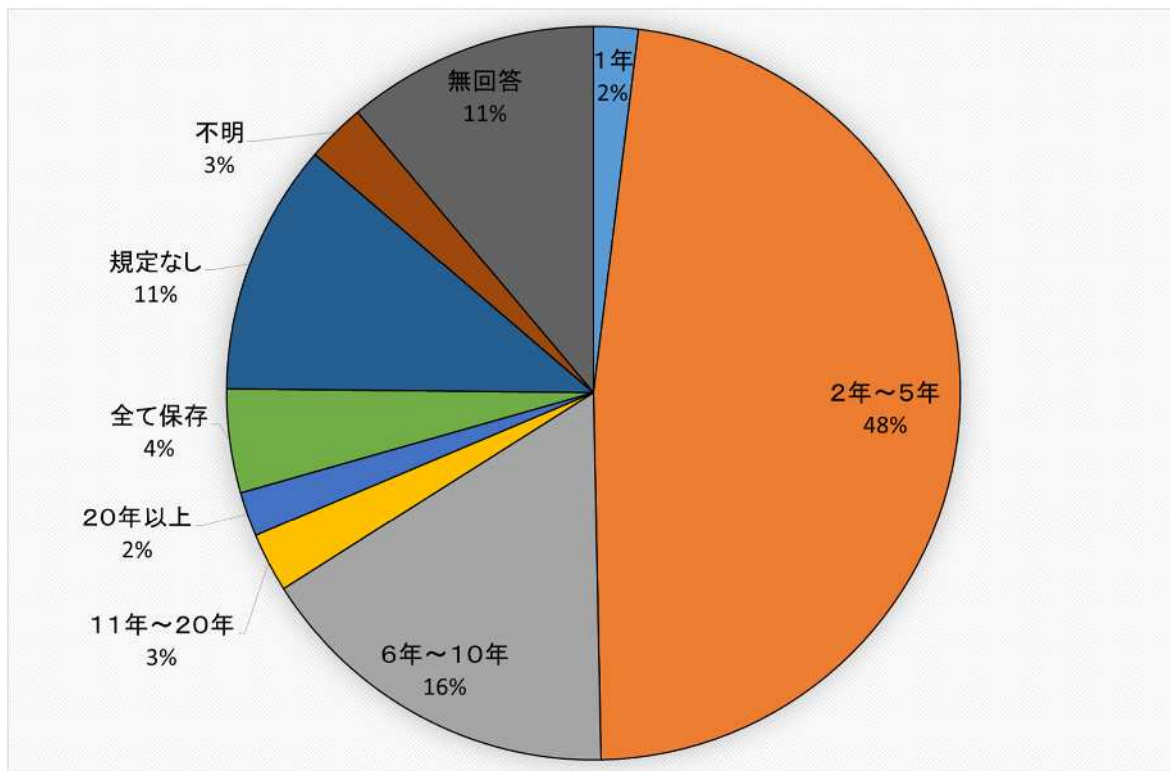
三役6名から会長を選出。

役員は次年度役員に残らない。(2件)

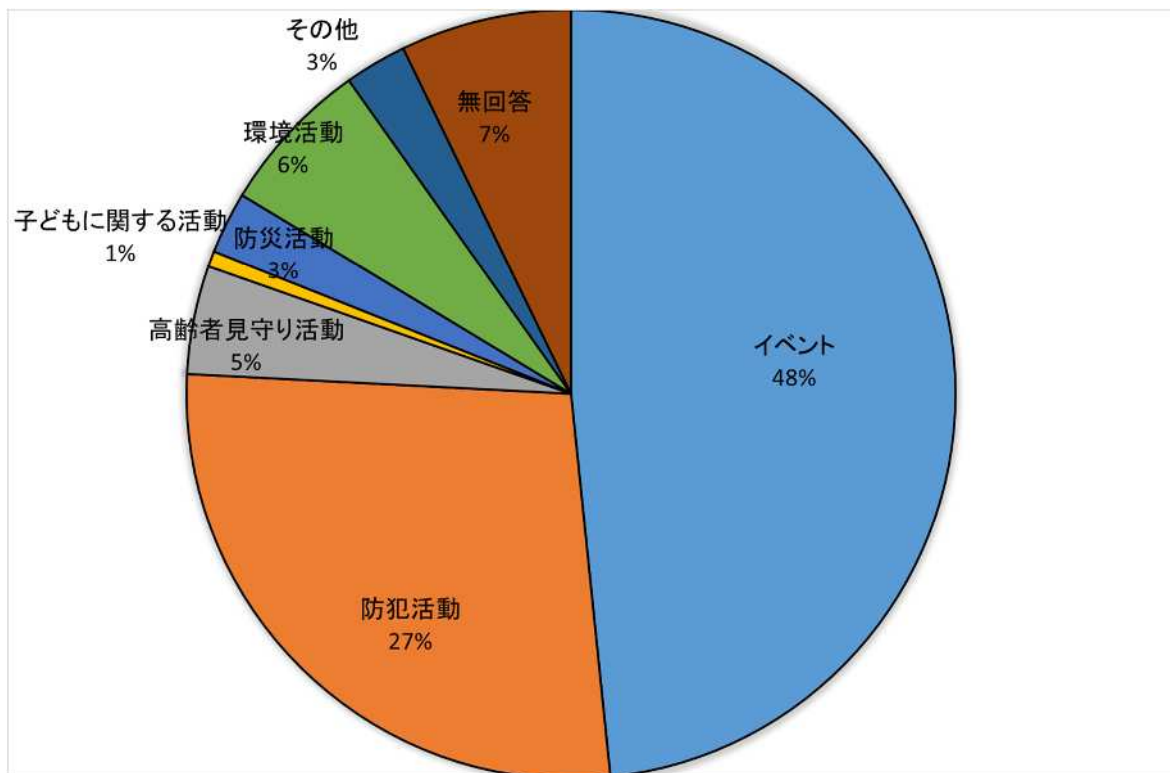
問4 会長や役員、班長などの選出について、年齢に関する規定(歳以上は各種役員等の免除など)はありますか。



問5 自治会の領収書等の帳簿に関する書類は何年保管していますか。



問6 自治会として力を入れていることは。(複数回答可)



問7 今年度、自治会会長として各種活動をし、感じたことや困ったことなどについてご記入ください。

会長の仕事について

仕事をしているため、自治会活動に参加できない時は、副会長が代理を勤めるようにしている。そのために情報をできるだけ共通に持つように努めている。

初めての役目で不安もあったが、よく副会長等の助言や他の役員の方も何事にも積極的に動いてくれた。

会長はやってやれない事はないが、仕事を持っている人はきついかもしれない。一生に一度会長職を経験した方が良いと思う。町内の良い面悪い面近所の間関係見えるし聞きもする。

自治会は会員平均年齢が70才を超えており、又、過去の自治会で何も活動が無く冷え切った自治会であったが、「どぶ板活動」をしてから少しずつ会員との会話がが増えて来た事が良かった。

地域一丸となった活動で困ったことはない。リーダーとしての発想の豊かさと率先力が必要だ。どのように地域をまとめていくかだと思う。

特に困ったことなどはなかったが、仕事を持ちながら会長として主に土、日に開催される会議に出席することが若干負担に感じる事があった。

市役所を始め学校や団体からの連絡事項が多く対応が大変だった。

東部地区自治会連合協議会の活動は非常に有意義だと思った。

会社を退職後、即会長をつとめることになったので、地域コミュニティに円滑に入りこめた。しかし、土・日をほぼ通年自治会会務により長期の旅行や様々な学習機会が自由に取得できなかった。

様々な人や組織の方々との交流が一年で途切れ、前年までの様な形からスタートしづらかった。いくら申し送りが出来ていてもお互いが初対面の場合、会長職は特にその様な人のつながりを、自分の組織への活動に対するアイデアにする事が大切な仕事と思う。

会議が多いことに驚かされた。

次期自治会長の手助けをしてスムーズでタイムリーな対応のできる年にしたい。

当自治会と管理組合との役員が同一であるため、自治会長、管理組合の理事を兼務しており他の役員も同じたため、傾向として管理組合活動が主となる。(戸建て住民の自治会活動にかなりの温度差を感じる。)

仕事(会社勤務)をしながらの会長職は時間や休み等に制約があり思うような活動ができない(市への要望事項等も平日に時間がとれず役所に出向くことも出来なかった。)

専任ではないので全て1からスタートであったが、前会長が高齢ということ、先送りされている重要な事が多数あると感じた。副会長と共にこの一年でやれることに手をつけたところ、反対意見等もあったが、気にしないよう努めた。やはり専任の事務局的な役割が必要ではと思う。

当自治会活動は各種イベントが沢山あり、会員も楽しんでいる。副会長(四年間)と違った意味で、多くの方々と接する機会があり有意義であった。

一年間通じて、日曜日がすべて自治会活動でつぶれた。

会長決まってから、今まではほとんど接したことのない市役所の各課、警察署、消防署、学校関係等に入出入りすることとなり、いろいろなことを見聞きし、非常に勉強になった。良くも悪くも規則で任期が1年と決められているため、1年ではどうにか運営することが精一杯で何か新しいことに着手したり、改革するにはやはり2~4年くらい役につかないと出来ないと感じる。実際問題、自治会長の負担は相当であり、働く人達にとって1年以上続けることは難しいと思う。会員、地域の方々をはじめ役員との心を通わせることから絆作りをしていきたい。

役員選出について

役員、班長の選出に時間がかかる。数回の親睦会を要望する方もいるがそれを望んでいる人が少ない。

若い人は役員になり手がなく、各世帯も高齢化している

住民が高齢化してきて、また、就業年齢が66歳くらいまで伸びてきて、なおかつ定年後に趣味に専念する人が増えている現状の為、自治会役員になり手が少なくなり、勧誘に四苦八苦している。

役員になるとそれなりに自分の時間が取られ負担だけがかかる為どうしても敬遠される。

世代間交流の少なさ。役員となると及び腰となる。

建売りの集合住宅で比較的若い人が集まっている為、古くから自治会をまとめる人も少なく、2年周期で役員しているので何もわからない所から始まり、終わってしまう、という感じである。役員も希望者がいなければくじになるので困る。

マンション内で輪番のため、毎年役員が全員変わる。そのため仕事の引き継ぎが難しい。

当自治会は、役員すべてが2年毎に交替するので、特に自治会長は、任務内容を理解するのに時間を要する。

地方自治体の一地域を守る組織としての自治会で殆どボランティアとしての活動には(特に高齢化に伴い)限界を感じる。

副会長として、一部の人に自治会の仕事が偏っており、平均化したい。

4年くらい継続して出来る人がいれば望ましい。

今年で35年、一勢に移り住み、一勢に高齢化、一年交替輪番で班長兼役員を健康寿命を延ばしている人に引き受けてもらっている。自治会長を率先して引き受けてくれる人がそうそういないことに代々の役員が苦労している。

自治会加入について

小規模な共同住宅入居者への自治会加入の良策がなく苦心している。コミュニケーションが取りづらいため安心・安全面の不安やゴミ出しルールの不徹底などによる衛生面等の課題があり、支え合いと住み良い地域社会づくりの阻害要因ともなりかねないとの懸念を抱いている。

自治会加入者の減少。外部活動よりも内部（マンション居住者の為）活動に力を傾注したい。

自治会員の拡大に努めたい。（特にアパート居住者に対して）

仕事している人は、とかく地域活動、自治会活動に目を向けない、無関心の人が多いと感じられる。

自治会に加入しなくても、何ら問題なく生活が出来ると考えている方に対する意識改革どうするか。この意識改革難しい問題である。

未加入世帯についてはそれぞれ事情もあるが、今後、災害時長期化した時の対応をどうするかなど課題がある。

自治会区域の一部が区画整理事業により住宅が移転されたことに伴い会員数が少なくなっている。また、未加入の世帯が数軒あるため、これらの加入活動に苦慮している。

クリーン作戦等は親子参加も多く、親にはポリ袋、子供には学用品等を帰りに配っている。

自治会が小さく、賃貸アパート世帯は出入が激しく自治会参加意識がなく、災害時等の非難に苦慮すると思われる。隣の自治会と合併も考えなくてはと思っている。自治会が組織の体をなしてない。

クリーン作戦や防災訓練等、積極的に参加が多かった。今後は自治会に未加入者にどうアピールしていくかが課題だと思った。

イベントについて

3か月に一度お祭りを開催して、参加者も増えてきたが、いつも同じような顔ぶれになる。抽選や駄菓子引換券等を事前に配布し工夫して新たに参加してもらった。

会員間のコミュニケーションを高める上で、イベント（納涼祭、もちつき等）は有用であると再確認した。

地域の「つながり」が、防犯・防災につながると思い、実績のない「もちつき大会」を催し成功できた。大変だったが結果としては非常によい経験となった。

当自治会は、地域的には賃貸住宅、ワンルームマンションが多く、自治会加入割合がかなり低く、住民の近隣の連帯意識が希薄である。そのため、各種のイベント（縁日、いも煮、もちつき大会）実施して会員勧誘に注力しているが、なかなか成果が挙がらないのが実情。

会員が高齢化しており（平均76才）イベントについては最近消極的になってい

たが、会員に参加協力してもらい大変盛り上がり有意義だった。今年も引き続き活発な自治会活動を行う予定である。

町内の新年会においては前年度は10数名程度であったが、内容を見直し広く参加出来るよう創意工夫した結果、予想を上回る参加者があった。これにより当自治会は町内会活動への理解が参加意識にも差がある事を痛感した。

毎年恒例で実施している「春季ふれあいウォーキング」「秋の親子ファミリーふれあい会」「自主防犯パトロール」「6自治会合同防災訓練」等全て役員会(三役、各部長)で綿密な打ち合わせを行い、検討をしながら実施し、終了後は必ず反省会を実施し、次回に役立てて行く。

自治会では行事に対し少しずつ参加者が増えで喜んでいる。

自治会活動への関心が今ひとつ足りないと思われ、特に防災活動への参加が少ない。親睦を兼ねてバス旅行に防災施設見学等を組み入れて参加してもらっている。

創設50周年で各種の企画を検討した。結局、身の丈に合った内容に落ち着いた。27年度は新会長の下、新規企画にもとづく活動展開が期待される。

高齢化問題(役員の担い手、高齢者見守り等)

会員の高齢化が進んでおり、高齢者向けのイベント・見守り事業等の充実に力を入れてきた。高齢化もあり、後任役員のなり手がなく、人選に苦労している。特に会計、監査など2年任期としている。

高齢化等により自治会活動の担い手が、限られ、効果的、効率的な運営方策が見いだせず、忸怩たる思いをしている。

住民の高齢化に対応する視点は避けて通れないところにきている感がある。社会の制度システム、行政の考え方、住民の共助意識など、相互に連携する姿が見えていない。この状況下で、自治会が関係する形がイメージできないでいる。

自治会について活動の柱となる会員が高齢化しており、会務の執行の継続性において、相当な無理が生じはじめている。時代に適応した体制づくりを、この3年行ってきたがまだ道半ばである。

高齢者対策として、老人クラブを設立し活動を始めた。見守り活動も大切だが、元気に長生きそして楽しく生活をしていただく為には、日頃のふれあいが重要であると感じている。

諸活動のリーダー格が高齢化しているが、ゆるやかに現役世代に継承しつつある。高齢者特に独居老人の見守り(福祉サポート委員会)や通常生活に困っているゴミやリサイクルのステーションへの手伝い庭木の手入れや雑草の除草や清掃、福祉タクシーの運行(ライフサポート)の活動に今年度は大きな力を注ぎたい。

高齢者見守りは、毎日曜日のパトロール実施時に対象者の状況確認(せんとく物、新聞等)している程度である。これ以上に踏み込んでの係わりはなかなか難しい。

見守りネットワークといっても、見守ってもらいたい人ばかりで、支える人がいない。超々高齢化自治会が今後継続して行けるか心配である。

見守り活動を去年立ち上げたが個人保護法のため民生委員からの情報がとれず苦労した。会長の任期の期限がないので4期目にやむを得ず立候補した。

認知症の方、生活困窮者が散見されるようになり行政、地域包括支援センター等との連携で支援をする必要を感じている。

防災・防犯関係

防災対策は会員ごとでかなり温度差があり「自分が地域に対して何ができる」という観点を持つ人もいれば、今だに受け身の考え方をする人も見受けられる。

当自治会には自主防災組織は存在するも、具体的な防災計画は無く、見直すこととした。見直し結果、会則には”事業”の筆頭に『防災に関すること』を入れ改正した。同時に細則を作成し、運用をはじめた。特に自主防災組織は継続的に維持向上が必要なため、26年度は見直し2年目の創成期と位置付け、25年度の防災本部長と副本部長が防災専任者として残ることとした。27年度自治会長には自治会の調整役として防災会議の一員とした。

各種規程、規約、会則の改定などの整備を実施した。防災関連で自主防災会規約、組織等について手がけたがまだ具体的な動きとしては不備である。

防災対策（特に自然災害）。高齢化に対する対策。

居住の地域、特性（マンション戸数、配置、諸施設）の条件に合った防災計画（備蓄品の確保、諸設備の用意）の立案支援に困っている。

防犯パトロール隊、子供の見守り等について参加者を募っているが、メンバーが固定されてしまっており、会員への広がりが見られない。

自治会館について

自治会館の用地や本部役員の選出に困った。

自治会館がないので、第3コミュニティホームや福祉会館を利用するしか方法がないが、他の自治会や団体と日程が重なるため、集会場や会議室を予約するのに苦労している。

その他

新たに自治会館を建設し、会員の交流の場として今後の活用をいかにしていくか。見守りネットワークを構築したので今後継続して充実したい。

自治会居住者の顔とつながり（コミュニケーション等）が不足している様に感じられた。自治会居住者に大災害へ備えるために地域防災活動、共助の意識を高めるにはどの様に対応して行くことが課題である。

自治会の規模が小さく、自営業世帯もほとんどないことから自治会活動の継続性を維持するため人材がいらない。毎年手探り状態での活動となっており、効率化や業

務の改善は極めて困難である。

5年間会長を務め、年々皆（会員）から理解していただいている旨を実感している。イベントを自粛し、誰でも出来る役員づくりを組み立てた。ただ、イベントがないとコミュニケーションが回らなくなると思われがちだが、当自治会では3か月に一度草刈り作業がありふれ合える環境は整っている。年配者でも草刈り作業に加わり、若者と話ができてうれしいと言われる。

継続性のある自治会活動を推進するには、役員の任期も含む自治会の運営方法についてもっと検討する必要がある。他の自治会のやり方も参考にしたい。

自治会活動PR手段として自治会サイトを利用（HPがわり）したいが不安もある。あわせて会館の事務室やインターネット環境整備が必要で経費面で課題が山積みである。

神社（祭礼）、消防団への寄付は寄付金等を適切な金額に抑制したい。

自治会館を使って各班ごとにコミュニケーションを図りたい。幾分かの費用はリサイクル報償金を当てようと考えている。

組織が大きくなったので（情報の）伝達に時間がかかっている。アパート（特にワンルーム）等集合住宅の課題がある。管理会社に協力もらえない。

ハリキリすぎない事。年々協力者は少なくなっているのは事実。協力してくれる人、参加してくれる人で楽しくやる他無い。

自治会の融和、明るい地域を醸成する意味で「あいさつ」の励行を呼びかけ会合等で会員に実行を働きかけた。かなり良くなってきていると思う。

文化を守り、住みがいのある町づくり」活動している。財政の健全化（黒字化）と年齢・地域を超えた住民参加の集い、少子化対策；子育て支援行っている。結果、大幅黒字化。隣人祭り、バザー、ふれあいの家バスツアーを実施した。会館の和室をハイハイサロンとし0～1才児のお母さんに開放しボランティア支援した（保健センターと提携）。感想として自治会は財政収支ともに硬直化しており、黒字化には苦しんだ。H26は消費税UPで相当厳しい（収入は一定）。

自治会活動で発生した課題等は性急な相談、要望とせず余裕を持って折衝するよう心がけた。誠意ある対応と実現に向けた取り組みで、感謝している。お互いの信頼関係の構築に努力する事が最も大切な事だと思う。年度末異動時は引継事項に自治会も加えて頂き継続性を維持して頂くようお願いする。

市に対する意見・要望について

全般

土・日に自治会業務を行うので市役所が休みの為連絡がとれなく困る場合がある。特に書類の問合せについて、平日は仕事があるため忘れてしまう。

市が自治会を出先機関の様につかえず。会長の負担が大でありやり手が居ない状態である。

全てに手を出すと相当なエネルギーと時間が必要となり、ある程度限界がある。市政の自治会への支援を待ち望みたい。

行政に対して自治会として要望しても中々応じて頂けない。特に流山市との対応について困ることが多い。ひとつは連絡事項等の多さ。普段仕事をしている者にと

っては処理しきれない。ひとつはゴミゼロ運動など自治会活動に関連する担当課が多過ぎ、どこの課に連絡をとればわからない。

市役所側も横の連絡が無いようで二度手間になってしまうことも多かった。できれば自治会関係の窓口はコミュニティ課ならコミュニティ課だけとしていただけないだろうか。

会長になると、不審者情報への対処を求められる。また放置自転車が公園にあり会長に対処してほしいとあり、警察も役所も及びごし。一人暮らしを訪問して元気づけている。

市の書類作成が多すぎるし、いろいろ手続書類を作成する手間は予想以上に大変。各課の横のつながりを行い、どうしたら自治会事務が効率的になるか。絶対に検討すべきである。(例)会長の変更届をコミュニティ課に提出したら、すべての課に連絡がいくというようなこと。

回覧文書について

市からの書面多すぎ。防災活動に関して個別の事案に対して配慮足りない。

市のあらゆる部署からの封筒がポストに入っているとがっかり、またかと思う。一つを解決、終わると又次の件で来る。一日に3通も来ることがある。市ですることを自治会にさせる。これは他の自治会でも言っている。

会長の仕事内容が多岐に渡っている。いろいろな組織から回覧用文書が届くが自治会内にいつごろ回すか、時期を判断することが困る。(提出までの期日が短く、回答におくれてしまいそうになることもあった。)

市から送られてきた回覧文書をそのまま回しては自治会員に理解されないと思う文書は会長として説明文書を添付して回したこともあった。

各種会議の開催について

当会の役員は、現役が多く、平日開催の説明会や会議は少なくなっているが、社会福祉関連や、防災リーダー研修などは平日の為(リサイクル団体代表者会議も)、出席調整が難しい。配布書類も少なくしてコスト削減意識を考えた方がよい。

私はまだ仕事をしている。市への報告、届け等が各課からバラバラに来ますが、市としてまとめた上で送付願いたい。例えばコミュニティ課が窓口となりOne Stopサービスはできないのか?

市役所関係の会議が同じ内容なのに課別に行う。時間のムダが多い。

未加入者に対する対応

市で自治会加入を推進するのであれば、集合住宅(アパート)の建築許可を出す際に、自治会加入をオーナーに条件としてすすめてはどうか。アパート住人の未加入や無関心さが気になる。自治会加入のメリットが全く感じられない。

補助金等

省エネが大きな課題になっている今日、当自治会でも防犯灯をLED防犯灯に替え始めて3年目を迎え、年7灯を目標に替えて行く予定であるが、高齢世帯が多い自治会であり負担が少しでも補助金でお願いできればと思う。

防犯灯補助金について。現在、防犯灯の設置、交換については5月に提出する設置計画により認定されたものが補助金の対象となるが、事前の計画提出後に経年劣化等、風水害により交換が急遽必要になった際に補助金が出ないことになり、自治会予算の圧迫となる。補助金をもっと弾力的に運用できるように改善検討して欲しい。現実には自治会のための制度改正をお願いする。

財政的に市の支援を求めたい。補助金・交付金は予算の数%なり、役員10人、専務4人でモチベーションは保てないといえる。1千世帯で行うには、会長の危険は余りにも大きい。副会長は9人いるが非常勤であり、ボランティアであるため(腰かけになりがちで)結束できないのが実態。地区に貢献したい。

市や各種団体の書類も多い。文書の整理が大変である。申請書、届出書等の書類も多い。全部目を通すのが大変である。無駄なことをさせる部署もある。ATMの振込証明書を添付しているのに、領収書がないと言って業者から取り寄せ送らせたことがあった。

当自治会には会館がなく、福社会館を利用したくても遠く、また予約も思い通りに出来ず活動したくても出来ない状況である。会館のある自治会に補助があるように、ない自治会にも民間住宅を借りる(自治会館と出来るような)補助金を検討いただきたい。家賃も高く、自治会の予算では無理がある。